

シェムリアップ Moi Moi ライフ

ISSUE
109

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



ナーガ・シンハ彫像 修復プロジェクト終了！

JST（NGO：アンコール人材養成支援機構）では、2012年よりバイヨン寺院外回廊のナーガ・シンハ彫像修復プロジェクトを行っていましたが、このたび全修復が完了しました。

このプロジェクトは、JASA（日本政府アンコール遺跡救済チーム）の技術協力のもと、日本ユネスコ協会連盟とJSTとの共同事業として進められてきた修復事業で、バイヨン寺院外回廊の81体のナーガ（大蛇）像と22体のシンハ（獅子）像、そして外回廊全体の欄干（つまりナガの胴体です）の、欠けている部分には新材料を補填し、倒れて散乱している彫像は元の位置に設置しなおすという修復を行いました。と同時に、この修復の過程を通して専門家1名と技術者8名の新たな遺跡修復材も誕生することになりました！

その技術者8名は、もともとはユネスコ協会が運営する寺子屋で識字教育を受けていた近隣の村の青年、つまり、字の読みました！

皆さんは、バイヨン寺院を訪問されるとがあれば、ぜひ、外回廊のナーガ・シンハ彫像もじっくりご覧くださいね！

小出陽子 (Yoko KOIDE)

1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年シェムリアップにレストラン Cafe Moi Moi をオープンする。同年JST（NGO：アンコール人材養成支援機構）を設立し、農村地域の支援活動を始める。2013年“アンコールの都の西北”に公立のバイヨン中学校を創設。2019年には高校も併設され、現在、全校生徒630人の学校運営を行っている。

● JSTホームページ
<http://www.jst-cambodia.net>



ナーガ像、シンハ像の修復作業

み書きができなかつた青年たちで、もちろん遺跡修復に関しても全くの素人でした。それが、8年間の実務経験の結果、遺跡修復や石彫技術を習得し、図面も描けるようになつたのでした。そして、全員、今後も継続して、別のアンコール遺跡修復事業で力を発揮できることになりました。1994年より26年間、アンコール遺跡修復事業に携わってきた夫は、JST代表としてこのプロジェクトを管理していましたが、現在のカンボジアの最高レベルの修復が遂行されたことに誇りと喜びを感じています。コロナ禍の情勢下、終了式典に日本から誰も参加者できなかつたことは残念ではありますか、8年間の実務養成を終えた専門家と技術者の晴れ晴れとした笑顔から、彼らの希望に満ちた未来とともに喜んでいただけたことだと思います。